

## 磐田市戦没者・戦災死者追悼式「平和への想い」

平成24年8月15日 磐田市民文化会館

僕は広島平和記念式典派遣団の中学生の一員として8月5日と6日の2日間、広島を訪れました。

1日目は、安田女子高等学校と広島平和記念公園を訪れました。

まず、安田女子高等学校を訪れ、そこにある被爆桜を見学しました。被爆桜は原爆が落とされた時に植物と共に被爆しましたが、再び花を咲かせたものです。その桜は今もずっと生き続けていて、原爆のことをもっと多くの人に知ってもらおうとしているように思えました。

次に広島平和記念公園を訪れました。着いた時にいきなり目に飛び込んできたのは、とても迫力のある原爆ドームでした。原爆ドームは被爆した時のまま残されており、見るだけで原爆の恐ろしさを感じさせられました。原爆ドームは、これから核兵器の廃絶や世界の平和のためにもとても大切なものであり、これからも残していかなければならないと思いました。そして全国から届けられた多くの千羽鶴を見て、広島の人々をはじめ、様々な人たちが平和ということ意識しているのが分かりました。

最後に平和記念資料館を訪れました。そこには当時の写真や品が数多く展示してありました。なかでも印象に残ったものは、原爆が投下された8時15分に止まった時計です。その時刻を過ぎると同時に多くの尊い命が失われたと考えるととても胸がいたくなりました。また、原爆が投下される前の広島記念公園のあたりは広島一の繁華街だったそうです。新しい1日が始まるという時に、人だけでなく、街並みも一瞬のうちに消し去ってしまいました。この話を聞いた時原爆というものの恐ろしさをさらに感じました。

2日目は、平和記念式典に参加しました。式典には日本人以外にも70カ国以上もの人たちが出席していたことを知り、核兵器や平和に対する関心が世界中に広まっているのではないかと思います。僕は広島市長さんの平和宣言にあった、被爆者の人たちの言葉を聞いて、原爆によって一瞬のうちに人々の生活が奪われてしまい、苦しいつらい日々を送っていた事を知り、戦争によって普段の生活が一変してしまう恐ろしさを知りました。

この2日間で平和に対しての想いが変わりました。そして平和ということがどれだけ大切なものかを知ることができました。今までは、戦争についての理解が欠けていました。そして「戦争はしてはいけない」ということを簡単にしか考えていませんでした。しかし、今回の体験により戦争によってどのような被害があり、それによってどれだけの尊い命が失われているかということが分かりました。また、今こうして平和に生きていることがどれだけ幸せな事なのかを、気付かされました。このような貴重な体験をさせてくださったことに、感謝しています。ありがとうございました。

この体験により、これからも自分たちが平和な未来を築いていかなければならないと思います。今、僕ができることは、式典の際に小学生の代表の子の言葉の中にあっ

た「違いを認め合い、相手の立場になって考えることも平和です。思いを伝え合い、力を合わせ支え合うことも平和です。」というように身近なところから平和を作ることだと思えます。そして、戦争の愚かさや平和を築いていくということ、広島で感じたことを僕が通っている南部中をはじめ、様々な人たちに伝えていきたいです。

最後に核兵器も戦争もなく、全ての人々が安心して暮らせる平和な世界を願うと共に過去の戦争で亡くなられた多くの方々のご冥福を心からお祈り申し上げます。

磐田市立南部中学校 3年 川合 晃生